

項目の範囲	活用データ	データヘルス計画・全体評価				個別保健事業評価									
		評価指標	計画策定時データ(平成28年度)	中間評価年度(令和2年度)	事業名	評価指標(アウトカム・アウトプット)	目標値	ベースライン(従前上でない目標値)	経年変化	指標判定	事業判定	うまくいった・うまくいかなかった理由	見直しと改善の案		
市町村全体の状態	KDB 「地域の全体像の把握」	人口構成	人口総数(人) ～39歳(%) 40～64歳(%) 65～74歳(%) 75歳～(%)	11,990 33.1 34.2 13.9 18.8	11,021 30.3 33.1 16.3 20.3	特定健診受診率 (実績値・法定報告値・速報値)	60%	H29 42.4% H30 43.2% R1 43.4% R2 43.6%	×	△	【理由】 目標値に達していないため。	対象者 ○ 集団健診の未受診者全員。 時期 ○ 集団健診が終了し、未受診者の把握のできる11月以降。 方法 ○ 集団健診実施後、未受診者を抽出し、個別(施設)健診の受診勧奨ハガキを1回送付。また、R1よりハガキ送付後にコールセンターによる電話勧奨も実施。 実施回数・量 △ 上記勧奨方法により、勧奨後、個別(施設)健診の受診が増加した。また、個人で病院の定期健診、職場健診を受診している等問い合わせが多くあり、みなし健診として扱い上げをすることで、受診率向上につながる可能性があるかと判明した。 連携体制・予算・人員 △ 効果的な受診勧奨策を企画・実行するには、現在の人員体制や手法では難しい。 事業について気づいたこと 未受診者の行動心理の分析が必要だと感じた。より受診率を伸ばせる様、時期、方法等も見直していく。	【今後の事業計画】 継続 追加・修正(事業拡大・縮小) 中止 【どうするか案】 ・被保険者証や納税通知書の発送時に、特定健診に関するチラシを同封する。また、広報やHP、受診勧奨ハガキに人間ドックの町の助成制度、職場健診のインセンティブ等を掲載し、多数に渡り目を引くよう工夫する。 ・情報提供事業に力を入れるため、町内医療機関との連携を図る。 ・現在の人員や手法では目標達成が難しいため、R4は予算を確保し、民間の力を活用することで、受診率の早期底上げを目指す。		
		平均余命	男性 80.0 女性 86.3	80.6 86.6	特定健康診査受診勧奨事業										
		平均自立期間(要介護2以上)	男性 78.9 女性 84.6	79.4 84.0											
		平均余命と平均自立期間の差	男性 1.1 女性 1.7	1.2 2.6											
		高齢化率		32.7	36.6										
	出生率(人口千対)		5.5	5.7											
	死亡率(人口千対)		14.4	16.4											
	国保の状態	KDB 「地域の全体像の把握」	被保険者構成	被保険者数(人) ～39歳(%) 40～64歳(%) 65～74歳(%)	2,941 19.1 32.7 48.2	2,643 16.9 27.8 55.3	特定保健指導利用率の向上(アウトカム)	各年度2%の増加	H29 71.0% 73.0%(2%↑) 75.0%(2%↑) 77.0%(2%↑)	H30 83.1% R1 75.0% R2 80.2%	△	△	【理由】 利用率、実施率は目標値に達しているが、メタボリックシンドローム該当者及び予備軍の減少率は目標値に達していないため。	対象者 ○ 健診結果によるメタボリックシンドローム該当者または、メタボリックシンドローム予備軍に対して実施。 時期 ○ 健診受診後、3月ごろまでに初回支援を行っている。 方法 ○ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年度から来所による結果説明会は中止した。対象者には保健指導の日程を個別通知し、初回面談を実施。来所が難しい場合は、訪問指導を実施。中間、最終評価は、面談や電話にて実施。 実施回数・量 ○ 初回面談日(個別保健指導)は設けているが、対象者の都合が悪い場合は調整し個別で対応している。中間・最終評価についても個別対応。 連携体制・予算・人員 △ 正規職員の保健師の数が減少し、一人当たりの担当数が増えているため、対象者とより深く関わることが難しくなっている。特定保健指導や入力事務等を行う、職員の確保が重要である。 事業について気づいたこと 特定保健指導実施率は維持しており、メタボリックシンドローム該当者の大幅な増加はみられない。	【今後の事業計画】 継続 追加・修正(事業拡大・縮小) 中止 【どうするか案】 ・新型コロナウイルス感染拡大防止の為、個別保健指導に切り替えた。個別に面談日の調整が必要であるが、方法を検討しながら今後も継続した保健指導につながるよう維持していく。 ・生活・栄養に関する事前アンケート調査を実施し、アンケートをもとに、本人が短期間で達成可能な目標を設定するなど、個々に応じた取り組みを強化する。
			被保険者加入率(%)		24.5	24.0	メタボリックシンドローム該当者及び予備軍の減少率(アウトカム)	各年度2%の減少	H29 14.7% H29 10.5% (2%↓)	H30 17.2% R1 10.3% R2 15.6% 12.1%	△	△			
			被保険者平均年齢(歳)		55.5	57.5	訪問実施率の向上(アウトカム)	前年度対比	H29 実施なし	H30 対象者 59人 訪問者 59人 実施率100%	△	△	【理由】 訪問実施率の経年変化比較はできていないが、事業対象者が異なり、評価ができないため。	対象者 ○ H31: R1健診受診者でHbA1c6.0以上(教室) H30年度医療機関未受診者かつHbA1c6.5以上(訪問) H31は前年度のポピュレーションアプローチからより対象者を絞った取組とした。 R2: R1特定健診受診者で①e-GFR50未満かつ治療のない者、②高血圧Ⅱ度以上で治療のない者・・・(訪問) R2特定健診受診者で③HbA1c6.5以上の者・・・(訪問) ※③については当初は教室を実施予定としていたが、新型コロナウイルスの影響を鑑み、個別訪問に切り替え。	【今後の事業計画】 継続 追加・修正(事業拡大・縮小) 中止 【どうするか案】 ・より対象者を限定し、着目した指導を実施していく。 R3対象者: R3特定健診受診者で、HbA1c6.5以上の者で医療機関未受診の者 ・方法: 対象者へ個別訪問する。糖尿病連携手帳を活用し、かかりつけ医との連携体制の構築を図る。
総医療費(円)				1,055,149,010	931,197,430	特定健康診査結果よりフォロー者数の減少(アウトカム)	前年度対比	R1 <教室> 対象者 268人 参加者 74人 実施率 27.6%							
1人当たり医療費(円)				360,982	356,781	健診結果で医療受診を勧めた方へ保健師が訪問、受診状況の確認等聞き取り(アウトプット)	前年度対比	<訪問> 対象者 62人 訪問者 62人 実施率 100%							
KDB 「地域の全体像の把握」		総医療費に占める生活習慣病費用割合		58.4	58.5	OGTT検査を勧めた方へ保健師が訪問、結果の読み方の説明や受診状況の確認、生活指導等(アウトプット)		R2 対象者 14件 ①18件 ②18件 ③63件 訪問者 14件 ①18件 ②18件 ③63件 実施率 100%							
		被保険者に占める生活習慣病患者割合		54.3	54.6										
		特定健診受診率(法定報告値)		42.9	43.6										
		メタボリックシンドローム該当者の割合(法定報告値)		14.0	15.7										
		メタボリックシンドローム予備軍の割合(法定報告値)		9.6	12.1										
特定保健指導利用率(法定報告値)		63.1	80.2												
特定保健指導終了率(実施率)(法定報告値)		33.3	84.6												
BMI25以上の割合		男: 21.9% 女: 13.9%	男: 22.1% 女: 17.5%												
八百津町 国保の平成28年度から令和2年度の変化															
・出生率は若干だが増加したが、死亡率の増加は続いており、八百津町の人口は減少している。また、人口構成としては、39歳以下の割合が減少し、65歳以上の割合が大幅に増加しているため、高齢化率が進んでいる。 ・国保の被保険者の構成についても、若年層の割合は減少、65歳以上の割合が増加している。65歳以上の割合については、50%を超過している。 ・総医療費は、H28とR2と比較すると減少したが、R1は1,088,562,300円で年々増加傾向であった。R2は、新型コロナウイルス感染症拡大防止による医療機関受診控えによる一過性である可能性があるため、今後の注視したい。 ・生活習慣病費用割合、患者割合に大きな変動はありません。しかしながら、メタボリックシンドローム該当者と予備軍の割合が増加傾向であるため、将来生活習慣病の費用、割合が増加する恐れがある。					その他										
データヘルス計画の中間評価年における総合評価: 計画の継続と修正、今後目指したいこと、方向性、この計画で行う仮説など八百津町のデータヘルス計画において、重点事業として、特定健診受診率の向上を進めてきたが、大幅な改善とはならなかった。国保被保険者の高齢化は著しく、1人当たり医療費や生活習慣病患者も増加している現状において、特定健診の受診率が向上することが、町民1人1人の健康意識の向上した結果であり、将来の医療費抑制につながるからと考え、引き続き受診率の向上に努める。また、糖尿病等の重症化予防については、より効果の表れる方法を模索しながら事業展開を図っていきたいと考える。															
【専門家の評価・コメント】 特定健診 評価 ○ 個別健診をすすめて、受診率を高めるということで、良い取り組みだと思います。 ・人数はまだ多くありませんが、これから、医療機関と連携して進めていってほしい。 糖尿病性腎症重症化予防 評価 ○ 評価指標は、医療機関への受診の割合ということでよいでしょうか。 ・事業内容のところは、もう少し具体的な内容を記載するとよいでしょう。 ・人数もそれほど多くないので、きめ細かい受診勧奨や保健指導ができそうですね。															

継続・中止

継続・中止

継続・中止

継続・中止